

ケーション、③企業版ふるさと納税、④先端技術企業の誘致による地域活性化、⑤IT技術者の育成・確保、⑥子どもたちの科学体験、⑦歴史遺産としての城の活用



一般質問
おしま やすひこ
尾島 保彦
(宇佐市)

農業産出額の向上策は



私にとって改選後初めての一般質問ということもあり、少し欲張って7項目14点について質問しましたので、報告します。

〔尾島〕農業産出額は、ここ10年間、ほぼ横ばいの状態が続いている。今後、農業産出額をどのように伸ばして行くのか。

〔知事〕魅力ある農業の実現には、産出額を伸ばし農家所得を向上させることが大変重要であり、生産基盤の強化、マーケットインの商品づくり、担い手の確保・育成などの構造改革を更に加速して行く。現在進めているプラ

ンの見直しでも産出額の反転増加に向け取り組んで行く。

〔尾島〕台風19号では、記録的な大雨で河川氾濫や大規模な浸水被害が相次いだ。本県における氾濫情報の把握と発信はどうしているのか。

〔部長〕県管理84河川に水位計を、うち20河川に22基の監視カメラを設置し、夜間を含め常時、水位情報を把握している。

今年度は更にカメラを60基増設し、防災機能の強化を図る。洪水被害のおそれがある水位に達した場合には「氾濫警戒情報」「氾濫危険情報」として、県民安心メールで通知。流域の大きい河川では「氾濫発生情報」も発表することになっており、水防団や住民等からの情報を基に、状況確認を行ない、気象台と共同で氾濫箇所や水位等を市町村や報道機関に通知する。

〔尾島〕大学入試における英語民間試験に関して、萩生田文部科学大臣の「身の丈」発言をどう受け止めているのか。突然の導入延期は学校現場にどのような影響をもたらしたのか。

〔教育長〕文部科学大臣の発言の真意は測りかねるが、11月1日、

大学入学者選抜に英語民間検定試験の結果を用いるシステムの突然の導入延期が発表され、大変驚いている。今のところ、学校現場に大きな混乱は生じていないと聞く。多くの大学で入試に英語成績提供システムを使用する以上、経済的な状況や居住地域に左右されず、受験機会が確保されるよう綿密な検討が行われることを望む。

この他、①洪水・高潮・土砂災害のハザードマップの作成状況について ②部活動の在り方に関する改革の課題と対策 ③県立博物館の利用促進、防火対策、学芸員・研究員の人材確保について ④人身事故の約4割を占める追突事故対策、ラウンドアバウト（環状交差点）の周知について ⑤民生委員・児童委員、主任児童委員の確保状況、負担軽減、定数増について ⑥特定不妊治療（体外受精・顕微授精）の現状と所得制限の撤廃、不妊治療と仕事の両立支援について質問しました。



一般質問
のぶゆき
もりなが
守 永 信幸
(大分市)

日本一の夢を語る県政を



①駅の無人化とスマートサポートステーションの導入について

JR九州のスマートサポートステーション（SSS）による駅無人化に対し、利用者の安全性確保の課題とJRを利用する上での利便性の確保について質問しました。

企画振興部長からは「急激な人口減少や他の交通機関との競合等により利用者が減少し、路線の維持・充実を図ることが難しくなっており、SSSの導入を言めた無人化は鉄道事業が厳しくなる中で路線維持を行うための経営努力の一環と受け止めるものの、公共交通機関としての役割を担う以上、安全性、利便性に対する県民ニーズを十分に踏まえるべき。今後安全性等の向上のためにJR九州には県民の声をしっかりと伝えていく」との答弁でした。

駅の無人化に関しては、障がいの

ある方々の不安を払拭出来ないことから、合理的配慮を欠くとして障害のある方がJR九州を提訴する方針であり、今後注目しなければなりません。また、鉄道の利便性向上策として、豊肥本線蒲尾・大分間に新駅を創ろうと地元で期成会が発足したことに触れたところ、広瀬知事が「新駅設置に大変関心がある」と答えており、JRの利便性向上と利用客の増加・定着に向けた議論を深めて頂きたいと考えています。

②移住・定住推進のために企業と連携した取組を！

更にアスリートのセカンドキャリア支援として大分県に移住・定住を勧める提案をしました。中津市でパイヤ栽培を始めた（株）ベーマカフューチャーファームが、「作る人、食べる人の健康を護り、アスリートのセカンドキャリアを支援する」というコンセプトで営農をしており、新たな着眼点で食が豊かで、温泉に恵まれた大分県への誘致に様々な企業と連携してはどうかと投げかけました。

その他、①県職員の能力が発揮できる職場環境づくり ②カン対策 ③旧優生保護法被害者救済に向けての積極的な取組などについて質問しました。